

平成 25 年度 第 2 回昭島市環境審議会 会議録（要旨）

〔開催日時〕 平成 25 年 10 月 21 日（月） 8：30～12：00

〔開催場所〕 昭島市（玉川上水、昭島市水道部、下の川、昭和用水堰）

〔出席者〕

- 1 委 員： 椎名会長、嶽山副会長、臼井委員、岡部委員、金井委員、桐谷委員、丹野委員、長瀬委員、久富委員、降旗委員、將堂委員
- 2 事務局： 村野環境部長、山口環境課長、指田係長、加藤主査、吉村係長、松永係長、秋山主任

〔要旨〕

1 開会

- （1）昨年度から昭島市の水について、どうあるべきか等について昭島市環境審議会で審議をしてきた。

そこで、今回は昭島市の水について、実際に現地に行き、視察することで今後の審議に役立ててもらうことを目的とする。

- （2）昭島市内の水環境を玉川上水、昭島市水道部、下の川、昭和用水堰の順に視察する。

2 視察

（1）玉川上水の視察

玉川上水とは、江戸時代のはじめ、多摩川の水を飲料水として江戸市中に供給する目的で開削された上水路。羽村の取水口から四ツ谷大木戸（新宿区）に至るその開削は、幕府の命によって玉川兄弟が請負い、承応3年（1654）に完成、以後、今日にいたるまで江戸・東京の主要上水として機能している。拝島駅北口から松中橋まで、市域を流れること約3キロメートル、上水兩岸は武蔵野のおもかげをとどめる雑木林となっていて、自然散策に最適である。（昭島市公式ホームページ「あきしまの史跡めぐり」より）



委員からは、玉川上水の水量について質問があった。それに対し、玉川上水は羽村取水堰で取水しているが、取水された水の大部分が途中で山口貯水池（狭山湖）などへ送水されているために水量は、昭島市市域内で見るとあまり多くないように見えると説明をした。また、玉川上水周辺には樹木も多く自然環境が良いがどのように管理をしているかという質問もあった。それに対し、玉川上水は東京都の管理地であり昭島市は管理をしていないが、昭島市の意見も反映させてもらえるように東京都に要請などして、この自然環境を残していきたいと説明した。

（２）昭島市水道部の視察

昭島市水道部では、その歴史から飲料水が出来るまでといった内容の説明を受けた後、施設を見学。地下水を汲み上げ消毒をどのように行っているか、また配水場の水をどのように効率的に配水しているかを見学した。

視察の中で、委員からはこの地下水はどこから来ているのかといった質問があった。それに対し、昭島市水道部では平成 14 年度から 16 年度の 3 カ年で「昭島市周辺地下水流動調査」を行い、この調査によると地下水は昭島市の南側（八王子市側）から来ているとの調査結果が出ていると説明した。

また、昭島市は地下水が豊富だが、これは誰でも井戸を掘って使用していいのかという質問も出た。それに対し、現在、地下水は東京都の条例でその使用は規制がかかっており、簡単に井戸を掘り、使用出来ないとの説明があった。また、東京都の自治体で地下水を飲料水として使用しているのは 3 自治体であり、そのうち完全に地下水 100%は昭島市と羽村市だけとの説明があった。地下水は昭島市などが飲料水として使用しているが、このような恵まれた環境に感謝しなければならい。限りある資源ということを忘れずに節水を心がけて欲しいとの説明があった。



（３）下の川の視察

昭島市の龍津寺の南側を流れる下の川は湧水も流れ込み、動植物も多く豊かな水環境が形成されている。下の川を視察しながら委員からは昭島市に住んでいながらこのような水環境があることを知らなかったなどの意見があった。このような機会を得られて良かったとのことだった。



（４）昭和用水堰

昭和用水に多摩川から取水する昭和用水堰を視察した。昭島市の用水の中でも最大の昭和用水は総延長 5,194mにもなり、取水している昭島市の西部から立川市域まで流れている。用水は農業に使用され昭島市の農業を支えている。近年、農業のための用水路という一面以外に用水路の自然環境にも注目が集まっている。

昭和用水堰を視察した委員からは、ここから用水の取水がされていることを初めて知ったなどの意見が聞かれた。



[配布資料]

資料 あきしま環境マップ

以上